



修学旅行～第2弾～

5月25日（月）修学旅行の1日目、昼食の後は、長崎市内に入り、長崎市平和公園・原爆資料館の見学でした。

資料館では、たった一発の原爆によって変わり果ててしまったさまざまな展示物を、子どもたちは一つ一つ見て回ります。

見学後、子どもに感想を聞くと、「自分が事前学習し想像していたよりも、相当ひどいものでした。展示物を見ながら原爆が炸裂した時の様子を思い浮かべると、すごく怖くなりました」と語っていました。



当時の様子を記録した写真や実物等の数々の展示物を実際に目にし、自分たちが見学しているこの場所で起こった悲劇は、物語ではなく現実のものであることを実感し、戦争の怖さや悲惨さ、平和の尊さについて改めて考える貴重な時間となったようです。

長崎市内の見学を終え、宿泊する島原市内のホテル南風楼に到着です。就寝時刻が間近となり、私が男子の部屋の様子を見に行くと、子どもたちが一つの布団に川の字のように横になり、一緒にテレビを楽しんでいます。日頃は共に過ごすことのない夜の時間と空間を共有する楽しさを大いに味わっていました。

翌朝、7時から朝食でした。5分前行動の約束のもと、6時55分になっても、本校の一部の子どもたちが食事会場にやってきました。後に話を聞くと、5分前に到着するように部屋を出たつもりだったが、客室から会場までの移動に時間がかかり間に合わなかったとのこと。遅れて会場に入ることになってしまいました。

しかし、この失敗を失敗で終わらせず、次に生かすことができるのが、本校の子どもたちのすばらしいところです。ホテル退館を前に、部屋の片づけの様子を担当が見に行ったところ、部屋はきれいに片づけられ、子どもたちはすでに部屋を後にし、なんとバスに乗り込んでいたのです。そして、その後も、集合時刻に遅れることは、決してありませんでした。

さて、2日目の見学地は、島原市内の雲仙岳災害記念館と被災家屋保存公園でした。

雲仙岳災害記念館には、火砕流による被害の記録が、さまざまな形で展示されています。その中に、流れた火砕流

と同じ速さで光が移動する装置がありました。時速100キロという目で追えないほどのスピードで動く光を見た子どもが、「火砕流の速さに驚いた」と語り、火砕流から逃れる難しさや怖さを感じていたようでした。

見学の後は、フェリーで熊本県に移動。グリーンランドに到着です。昼食の後、2グループに分かれて、アトラクションを楽しみます。



修学旅行出発前、“クラス全員でお揃いのキーホルダーをお土産に買おう”と話合っていた子どもたち。約束の時間に集合し、みんなで土産店に入り、お揃いのキーホルダーをうれしそうに持ってお店から出てきた姿が印象的でした。

この2日間天気恵まれたものの、5月にしては非常に暑く、外での見学・活動が多い中、熱中症が心配されるほどでした。しかし、どの子どもも元気に笑顔で学校に戻ることができました。

同乗の東小学校の子どもたちと、長時間同じ空間を過ごす中で、徐々に会話が広がる様子が見受けられるようになりました。

見学地での学習のみならず、小規模校である本校の子どもたちにとって、他校の子どもたちとの交流が広がった有意義な修学旅行ともなりました。

「金曜日の昼休み、全校でレク遊びをします」

5月中旬、各教室の授業の様子を見回っていると、教室後ろに、「招待状 来週の昼休みに、全校でレク遊びをしたいと思います。ぜひ来てください」と書かれてあるちらしが掲示されています。その教室の子どもに尋ねると、4・5年生が持ってきたとのこと。

そこで、ちらしを持って行った4・5年生に話を聞いてみることにしました。

4・5年生（複式）の学級では、係活動のひとつに“レク係”があるそうです。クラスレクについて係で相談している際に、4・5年生だけだと人数が少ないので、全校で遊ぶともっと楽しく盛り上がるのではないかという考えにまとまり、クラスだけで遊ぶレクとともに、全校レクの企画も考えたのだそうです。



担任の先生と協力して準備をし、いよいよ全校レクの時間となりました。なんと全校の子どもたちが運動場に集まってきて、あるテレビ番組の企画を参考にした追いかけっこで遊びます。4・5年生の言葉通り、盛り上がった楽しい昼休みとなったようです。

クラス遊びの現状から全校遊びを提案し、行動に移してくれた4・5年生。自分たちの手で、楽しい学校づくりを進めてくれています。